

## 中学校国語 全体考察

### 中学校A（主として「知識」に関する問題）

#### 「話すこと・聞くこと」について

◇ 「文化祭の準備のあり方について」の話し合いの場面で、司会の適切な発言を選択する問題は多くの生徒が正答しています。また、インタビューでの心がけとして適切な内容について答える問題やインタビューの展開に即した質問に答える問題においても、多くの生徒が正答しています。話し合いの話題や方向をとらえて的確に話す力や、話の論理的な構成や展開を考えて話したり聞き取ったりする力が定着してきていると考えられます。

#### 「書くこと」について

- ◇ 二つの意見文を読み比べ、段落分けの適切な組み合わせを選ぶ問題では多くの生徒が正答しています。「問題提起」「具体例」「まとめ」という組み立てに着目して文章を構成する力が定着していると考えられます。
- ◆ 書き出しに結論部分を書き加えた意見文の評価については課題があります。文章の論理の展開に着目していないために誤答となっている割合が高いことから、複数の意見文を読み比べることで構成や展開のよさを自分の文章に生かす学習が大切となります。

#### 「読むこと」について

- ◇ 「虎」や「狐」のたとえが示している内容や「虎の威を借る狐」の意味を文章中から読み取る問題では多くの生徒が正答しており満足できる状況です。文章の展開に即して内容を読み取る力が定着しています。また古典の文に句点をつける問題や「いふ」「ゐたり」を現代仮名遣いに直す問題での解答はおおむね満足できる状況です。
- ◆ 随筆の内容を要約した一文の取り出し方には課題が見られます。文章の読み取りにおいては、指示語の指し示す内容を考えたり具体例をイメージしたりしながら読み進めることが大切です。

#### 「言語事項」について

- ◇ 漢字の正しい読みや書き取り、文脈の中での語句の正しい使い分け、楷書と行書の比較による特徴の説明などは、多くの生徒が理解していると考えられます。
- ◆ 宅配便の伝票の見やすさを説明する問題の解答はおおむね満足できるものの、字の配列や配置に着目できずに誤答した生徒が目立ちました。目的を明確にさせ、必要に応じて字形を整えて書くことを意識させることが指導上大切になります。また、辞書をもとに慣用句の意味をとらえることに課題が見られます。日頃から国語辞典や漢和辞典を活用する指導を継続していく必要があります。

### 中学校B（主として「活用」に関する問題）

問題1 「図書館で見つけた資料」と「インターネットで見つけた資料」を比較し、その違いに気づき、適切な情報を選び出して書き換える力をみる問題。

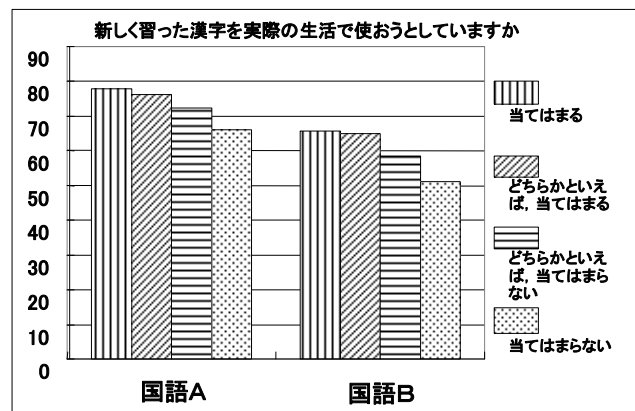
- ◇ 「フロリゲン」の説明として適切な内容を選択する問題や文章の表現の仕方について、説明した内容を選択する問題の解答についてはおおむね満足できる状況です。



### 3 指導改善に向けて

(1) 質問紙調査で「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか。」に対して「使おうとしている」と答えた生徒ほど問題の正答率が高いことがわかります。これは昨年が続いて見られる傾向であり、漢字の読みや書き取りについては短文の中で熟語を位置づけて練習させるなどの工夫が効果をあげていると思われます。

(2) 「タイショウ」(対象 対照 対称)などの同音異義語のように間違いやすい漢字については、身の回りのさまざまな情報を用例として取り上げながら、定着を図ることが一層大切になります。



### 1 調査問題(歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかみる設問)

国語A [6] ハイ ① [現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。]

「翁といふものありけり。」

国語A [6] ハイ ② [現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。]

「いとうつくしうてゐたり。」

### 2 学習・指導の状況

(1) 古典の学習では、歴史的仮名遣いから現代仮名遣いへの表記は基本的な内容として指導し、その定着を図ってきています。そのため、「いふ」→「いう」、「ゐたり」→「いたり」については多くの生徒が正答しています。これらは、授業において繰り返し音読を行うことで古典のリズムになじませてきた成果と考えられます。

(2) 一方で、わずかですが誤答や無解答の生徒も見られました。1年生の古典学習の仮名遣いについては、声に出して正確に読むことが十分徹底していなかったと思われます。そのため、「いふ」「ゐたり」は「iu」「itari」と発音し、それぞれは発音どおりに仮名書きすると「いう」「いたり」という表記になるという点があいまいになっていると考えられます。

### 3 指導改善に向けて

(1) 古典の文章に対しては抵抗感を持つ生徒が多く見られます。しかし、質問紙調査で「国語の勉強は大切だと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒がほとんどです。国語の勉強は大切だと考える生徒の学習意欲を損なわずに古典の学習を進めていくような学習形態の工夫が大切になります。歴史的仮名遣いの指導においては「は行」や「わ行」のように表記が変化する行に着目させ、その特徴をとらえさせながら音読をもとに一層の定着を図ることが大切です。

(2) 年間指導時数の中で、古典学習にあてられる時間は各学年とも12時間前後となっています。生徒にできるだけ多くの古典作品に触れさせるために、「百人一首大会」などの行事や図書館の古典作品コーナーなどを魅力あるものにしていくことも大切です。

## 1 調査問題

(複数の資料を比較して読み、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるかをみる設問)

国語 B (1) 三) 文章【B】を読んだ長井さんは、文章【A】の最後の段落に書かれている情報が、最新の情報ではなくなったことに気づきました。この段落を新しい事実を伝える内容に書き換えるとしたら、どのように書き換えられるでしょうか。次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。  
条件1 文章【B】で報じられた新しい事実に基づいて書くこと。  
条件2 「いつ」「だれ(が)」「何(を)」「どうした」という四つの要素をすべて含め、それぞれ文章【B】の言葉を用いて書くこと。  
条件3 「そして」という言葉に続けて書くこと。

(目的意識をもって古典文学作品を読み、表現に注意しながら読み取った内容を条件に合った表現に直して書くことができるかをみる設問)

国語 B (2) 三) 青木さんがはった付箋を並べ直してみると、付箋②から付箋⑦は、次に示したように頼信と頼義の行動が対になっていることが分かります。これを参考にして、付箋 A と対になるように、付箋 B に当てはまる頼義の姿を、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。  
条件1 「頼義」で終わるように書くこと。  
条件2 「命令」という言葉を使って書くこと。  
条件3 二十五字以上、三十五字以内で書くこと。

## 2 学習・指導の状況

- (1) 1三の設問の解答をみると、条件1を満たさないため誤答している生徒が半数弱います。出題の意図を理解し、与えられた条件の中で伝えたい事項を明確に書くことに課題があります。質問紙調査「授業で意見などを発表する時、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」に対して「当てはまる」と回答した生徒は半数ほどしかいません。「当てはまらない」と回答した生徒ほど正しく答えられない傾向があります。課題に対して、複数の情報を吟味しながら自分の考えをまとめていく学習や、自分の考えを条件にそって効果的に記述する学習を取り入れる必要があります。各校では更に筋道を立てて考えを述べる学習を継続して指導することが大切となります。
- (2) 2三の設問では無解答の生徒がやや目立ちました。読み取った内容を条件にあった表現に直して書くことに苦手意識を持っていると考えられます。そこで、個別指導において、図や表を用いて書かれている内容や登場人物の関係を正確に読み取らせることが大切になります。その後、下書きをもとに、条件にあてはめながら考えをまとめさせますが、推敲の際には主述関係に着目させるなどの支援が必要となります。

## 3 指導改善に向けて

- (1) 文章から読み取った内容や、資料の情報を根拠にして自分の考えを書く力を伸ばすために、題材についてあらかじめ話し合いをさせることが大切です。例えば、意見文の学習では、それぞれの立場から根拠を明確にさせて話し合わせ、互いの考えを十分理解させた上で取り組ませます。更に、表現方法における指導として、段落の書き出し方の例示や使用する接続語の指定など書き方のモデルを示すことが大切であると思われます。
- (2) 設問に対して無解答となっている生徒の書くことへの抵抗感を減らすために、表現の仕方を支援していく必要があります。たとえば、新聞のコラムや社説の視写を取り入れる学習が考えられます。視写を通して、文章の書き出し、起承転結などによる構成の仕方、文末表現の特徴などに着目することで、書くことへの意欲の高まりが期待できると思われます。また、定期テストにおける記述問題の出題を通して、複数の条件に合った意見文を書く経験を広げていくことも必要となります。